

## 【資料1】

### 【目指すべき全体像】「持続可能」な『お茶の博物館アリット』の運営

- ・財政面での持続可能性
- ・人員面での持続可能性
- ・民間ノウハウの積極的導入

### 【短期的課題】

事業	方向性(第1回案)	前回(第2回)の適用案	進捗状況
お茶体験	◎休憩コーナーに、市内のお茶屋や、日本各地・世界各地の茶を扱う店が、月替わりで出店するなど、各地のお茶を販売したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市茶業協会との連絡調整には指定管理者と学芸部門が連携する。</li> <li>・実演販売に必要な道具や消耗品(急須・茶碗・紙コップ等)については、出店者側が持ち込みで実施。</li> <li>・出店者は、市茶業協会が会員に募集をかける。</li> <li>・実施時期や実施回数については、市茶業協会から希望を伺う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度については、お茶大学など博物館で事業が開催され来館者が見込める日に限定して実施を検討。</li> <li>・市茶業協会を通じて、市内茶業者と調整をして、秋頃(10～11月)に実施。</li> </ul>
お茶大学	◎受益者負担として、受講生から参加費を徴収し、その収益を講師料や茶摘み体験費、体験用消耗品費に充てたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、ニーズは高いが、学芸部門では費用面や様々な制約で実施出来なかったお茶に関する体験講座を、同居型(学芸部門と指定管理者が同居している形態)のメリットを活かして、学芸担当と指定管理者が共同で企画運営する。</li> <li>・茶室を有効活用した体験講座を増やす。</li> <li>・県茶業研究所や地元企業との連携講座を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度から学芸部門と指定管理者が共同で企画運営する形態を実施。</li> <li>・茶室を有効活用し、茶室見学、茶席体験のほか、和菓子作りや茶臼体験などの講座を実施予定。</li> <li>・地元企業や地元茶業者との連携講座を実施予定。</li> </ul> <p>⇒【資料2】ALIT お茶大学 受講生募集パンフレット校正刷り</p>
博学連携	◎「狭山茶とふれあう教育」で、副読本やタブレット教材(動画など)で、博物館の資料や調査研究成果を活かした映像コンテンツなどを提供したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が、学校の授業に関連した博物館の展示物や資料等を、個人用タブレットから分かりやすく調べられるよう、学年や単元に合わせた説明や画像のコンテンツを、博物館ホームページに掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者と共同で、YouTube動画(アリットチャンネル)を制作し順次公開。</li> <li>・「お茶博士になろう!」というパワーポイントを作成し、博物館授業やオンライン授業を実施。</li> </ul> <p>(令和5年度は市外の小学校で実施)</p>

【中・長期的課題】

事業	方向性(第1回案)	前回(第2回)の適用案	進捗状況
茶摘み体験の実施	●市内の茶農家・茶業者と連携して、茶摘み体験ツアーを実施したい。	・市内の茶農家で実施している茶摘み体験事業をリサーチ中。 ・県茶業研究所の「茶摘み体験フェスタ」とのコラボ事業を検討中。	・令和6年度 ALIT お茶大学で、市内の茶農家・茶業者と連携した茶摘み体験ツアーを実施予定。 ⇒【資料2】ALIT お茶大学受講生募集パンフレット校正刷り
	●参加費を徴収し、茶摘み体験を受け入れ協力してくれた茶農家・茶業者にとっても、収益となる事業にしたい。	・静岡や宇治の茶文化施設や、市内外の茶農家が実施している茶摘み体験の価格をリサーチした。	・令和6年度 ALIT お茶大学で、茶摘み体験ツアー受け入れ協力の茶農家・茶業者には、協力者謝礼を支払う予定で、受講料の価格を設定。 ⇒【資料2】ALIT お茶大学受講生募集パンフレット校正刷り
	●茶摘みした茶葉を「一煎」で天ぷらにして食べるなど、茶摘み体験、一煎での食事、展示見学などをパッケージ化し、五感で茶をトータルに学び楽しむ「狭山茶体験ツアー」のコースを整えたい。		<来年度継続協議>
	●圏央道沿いの大型バス観光客や、近隣観光地(川越、さくらタウン、ムーミン等)の観光客を、狭山茶体験ツアーに呼び込みたい。		<来年度継続協議>
	●インバウンドにも対応できるスタッフを確保したい。		<来年度継続協議>
	●指定管理者を中心に、旅行会社や茶業者など民間企業と連携して、効率的な企画運営がしたい。	・地元企業と連携し、茶摘み体験や製茶工場見学などの企画を検討中。	・令和6年度 ALIT お茶大学で、旅行会社や茶業者と連携したガストロノミーツーリズムを実施予定。 ⇒【資料2】ALIT お茶大学受講生募集パンフレット校正刷り

事業	方向性(第1回案)	前回(第2回)の適用案	進捗状況
常設展示のリニューアル	●平成31年3月に博物館協議会より答申をいただいた計画を早期に実現したい。		< 来年度継続協議 >
	●入間市が、狭山茶「誕生の地」であり「主産地」であることを内外にアピールするため、これまで蓄積した調査研究成果を活かして、地元「狭山茶」をメインにした展示にしたい。		< 来年度継続協議 >
	●茶関連企業などに、自社製品に関する展示スペースを提供したり、ネーミングライツを導入したりして、リニューアル費用を確保したい。		< 来年度継続協議 >
	●産官学連携で、茶商品の新しい動向や、茶の健康効果など、当館学芸員の専門分野でカバーできない内容も盛り込みたい。	・地元企業とのコラボなど、産官学連携を検討中。	< 来年度継続協議 >
お茶体験	<p>●茶室「青丘庵」の一般貸出しがない土日祝日に、呈茶(ミニ茶席体験を目的にした抹茶のサービス:有料)をしたい。</p> <p>●各種の体験事業の収益を、スタッフの人件費や茶葉購入料に充てる。</p> <p>●指定管理者により、効率的な運営がしたい。</p>	・茶室での呈茶を実施するため、ボランティア等も視野に入れた人材の確保を検討している。	< 来年度継続協議 >
お茶大学	●講座を受けるだけの「受け身」の形だけではなく、受講生が学芸員とともに調査研究を実施し、その成果を博物館の展示や事業に活かす「循環型」の事業にしたい(研究生コースの再開)。	・「研究生コース」に限らず、お茶大学の受講成果を、新たな事業に活かす方法を検討している。	< 来年度継続協議 >
博学連携	●現状、小学3年が「むかしのくらしと道具展」、小学6年がオンラインによる「自然・歴史展示の見学」、中学1年が「茶席体験」を実施しているが、より博物館学習の効果が活かせる単元に合わせて柔軟に対応できるように、博物館・学校連携事業研究委員会等で対象学年や授業内容について検討したい。	・学校の立地や教育課程の進度によって、柔軟に見学内容を合わせていけるよう、学校との連携を密にしている。	< 来年度継続協議 >